

【取組内容①】 オンラインで他校の生徒と繋ぐ～模擬裁判『少年の日の思い出』～（2/2）

2-4.まとめ・表現

班ごとに他校の生徒とオンラインで繋ぎ、模擬裁判を行った。それぞれの用意した内容を伝え合うことはもちろんだが、話合いの流れでそれを組み立て直したり、その場で反論や質問を考え伝える姿も見られた。目的は「流れを考えて話合いを行い、自分の考えを持つ」ことであり、説得力の高い意見を評価し、自らの読み取りに生かす姿が見られた。

2-5.振り返り・改善

模擬裁判を行うことで、それまで自分たちで読み取っていた内容以上の新たな発見があった。同じ行動描写に注目しても、それが原告側と被告側で受け取り方や捉え方が異なり、違う読み取りが成立することに気づく生徒もあった。また、思うように意見が言えなかった生徒も、振り返りや傍聴人としてのワークシートで自身の読み取りについて表現することができた。いずれにしても、一人の読みでは到達できなかった内容にたどりつき、それを自覚することができていた。



3. 成果と課題

3-1.成果

今回の学習活動を通して、教科書から論拠を見つけるため、主体的に読み進める生徒の姿が見られた。また、同じ描写でも、視点が違えば捉え方や解釈が変わることに気付く生徒も見られた。また、他校の生徒と話し合いを行うことで、通常の授業とは違う緊張感や達成感を感じる姿もあった。話し合いの質も高まったように感じる。

以下、生徒記述

- ・私は、最初は「僕」は有罪だと考えていたが、読み取りを深めるにつれ、蝶を台無しにしたことは悪いことだけど、その後の行動も勇気のいることだし、エーメールの日頃の接し方にも問題があったのだと思います。さらに、最後に償いをしたことで、心の成長が見られたと思います。ただ、これは読む人によって解釈が違って、面白かったです。
- ・相手校の人が、行動描写だけでなく心情描写にも着眼点をおいて考えていて、さらに読み取りが深まりました。また、情景描写からも考えている人がいて、行動描写だけでなく、心情描写や情景描写も、読み取りを深める大切な描写だということに気付かされました。

3-2.課題

今回の実践では、班ごとに生徒を原告側と被告側に分けたため、個別最適な読みにはなりきらなかったように思う。それぞれの個別の読み取りから立場を分けることで、さらに主体的な読みが実現できたのではと感じる。また、話合いの流れの中で発言できる生徒は一部であり、さらなる技能の習得に努めたい。

4. 今後に向けて

今回の他校との実践は、一定の成果が見られた。今後、他の学校や違う集団との交流も考えていきたい。